

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692700020		
法人名	医療法人社団 外松医院		
事業所名	医療法人社団 外松医院 ハーモニーグループホーム		
所在地	京都府舞鶴市竹屋 98-1		
自己評価作成日	平成22年12月30日	評価結果市町村受理日	平成23年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2692700020&amp;SCD=320">http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2692700020&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年4月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

処遇方針、基本理念にもあげている様に、「質の高い心のある介護」「和」を最も大切にしながら、職員全員がお年寄りに対して優しく、大切にしてくれている事が自慢出来る事です。それは過保護ではなく、お年寄りの力を活かした支援を出来る様に日々努力出来ている事は今後も継続していきたいと思っています。そして歌や音楽が大好きなお年寄りが多いことから定期的に音楽療法を取り入れ、日々の生活に音楽を取り入れている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは理念に沿って個々の利用者を尊重し「和」を大切に、その人らしく生きることを支え、職員と共に一つの家族のように助け合い、共に生活できるよう取り組んでいます。地域貢献の一環としてホーム独自で取り組んでいたシルバー110番の取り組みが市のモデル事業に取り上げられたり、ホームで認知症デイサービスによる地域高齢者の受け入れ、老人会での健康講座の開催等、地域に貢献する様々な取り組みを通して地域と良好な関係を築いています。又、職員の提案を積極的に取り入れ、音楽療法の取り組みなどを通して、職員のやりがいや意欲の向上に繋がり、個々の職員は理念の「その人らしさ」の支援について自己満足とならないよう深く考えるなど、職員のケアに対する意識の向上に繋がりが質の高いケアの提供に努めています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝の申し送り前にスタッフ全員で基本理念の唱和を実施し、常に意識を促している。	理念の中の一文字「和」を玄関の誰もが見やすい場所に掲示しています。ミーティングや申し送り時に理念を意識できるように皆で唱和し、利用者との「和」を大切にしながら理念に沿った支援が行えるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地藏盆やお祭りへの参加、清掃行事、合同災害訓練などにも参加させて頂いている。	年に数回行われる地域の清掃行事に職員が参加したり、地域の合同災害訓練に利用者と共に参加しています。又、シルバー110番の家になっており地域高齢者の相談を受け付ける取り組みを行っています。小学生の実習を受け入れ交流する機会を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年の小学校5年生への福祉学習会の実施。認知症の家族の会への学習会の実施。シルバー110番における相談から勉強会の実施を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月の一度の会議の中で、老人会会長、町内会会長、民生委員さん、包括支援センター、市の介護保険課より参加して頂き、意見を伺いながら毎回現状報告をさせて頂き、火災訓練などにも参加して頂いている。	運営推進会議は行政担当者や家族会会長、地域の関係者などの参加を得て開催しています。ホームの現状報告を行い、その時々議題について活発な意見交換が行なわれ、地域の参加者からは地域の様々な情報を得ています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は認知症地域支援のモデル事業として市と多く関わる事が出来た。認知症家族の会での交流会でも当施設の取り組みやグループホームについての説明がする事が出来た。	運営推進会議に市担当者の参加を得ており、共用型デイサービスについてや分からない事は相談にのって貰っています。担当者は日ごろから行き来が多くあり、良い関係作りができるよう事業所からも常に働きかけています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束はしない方向であるが、胃瘻挿入中の方に対して注入時の自己抜去の可能性が高い方に対して、主治医の指示により、ご家族の同意を得て注入中のみミトンを使用していた。現在は対象者なく拘束していない。	身体拘束についての研修に参加し、外部研修受講後は職員間で共有できるように伝達研修を行っています。勉強会やミーティング時にも様々な拘束について話し合い理解が深まるよう取り組んでいます。玄関のカギはかけずし出かけた様子があればできる限り一緒に出掛けるよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は年1回、研修会に参加。施設内においても勉強会を実施している。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して勉強会の実施をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明を十分に行い、入居後も面会のたびに話をさせて頂き、疑問点などがなにか伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の会長を運営推進会議にも参加して頂き、遠慮なく意見を言って頂けるように促している。常にご面会時には話をさせて頂けるように努めている。	家族会の際や、面会時など日ごろから多くの意見や要望を聞くよう努めています。冷暖房の設定温度について等、出された意見は職員間で話し合い共有し速やかに対応しています。又、介護相談員を受け入れ利用者の様々な意見を聞く機会を設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的及び必要時の個人面談を取り入れながら意見を聞くようにしている。	日々のミーティングや月1回の職員会議、年2回行われる人事考課の際や必要時の個別面談などで多くの意見や提案を聞く機会を設けています。職員の提案で取り組んでいる音楽療法など、出された意見や提案はできる限り運営に反映させる事で、職員のやりがいや意欲の向上に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者の報告や、職員個々の状況を把握しながら頑張っている職員に対して給与や賞与に反映しようと努力はしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲のある職員に対しての研修への参加は積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の活動に対して協力的であり、色々な取り組みに対しても理解を示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り本人の訴えや希望に対して耳を傾けながら、それぞれの思いに気づく努力をし、時間をかけながら誠実な対応を努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の間は特に話をしたり、報告する機会を可能な限り作り、毎月の連絡表も細かい報告をさせて頂き、対応の方法も相談させて頂きながらご家族の意見を多く聞けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を使用しながら、出来る限りの情報を収集し、その人らしさ、その人が力を発揮出来る事をまず考えていく努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的な方針として一緒に生活していき、喜怒哀楽を共にしていく努力をし、処遇方針にも挙げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に対話を持ちながら、職員全体でご家族との関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大事にされている色々な方との関わりを大切にしながら、行きたい所へお連れしたり、来て頂いたりしながら、施設に入居されても継続的な関わりが持てる支援に努めている。	友人や近所の方が面会に来られたり、親戚の法事に行かれる方や行きつけの美容院へ通われる方などを支援しています。他施設へ入所されている娘の帰宅日に合わせて自宅へ戻られ家族で過ごされる方や、又、自室に引いた電話で家族と毎日話をされる方など、個々の利用者の様々な関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中で合う合わないがある中でも、その関係を把握しながら、円滑な人間関係が保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	不本意ながら、療養型へ行かれたお年寄りに対しても定期的に面会に行く様にしている。今後も可能な限り退所後も関わりを持てるように努力していきたいと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人にとっての思いを常に考えて支援出来る様に勉強会にも取り入れながら、常に「その人の思い」を気づく努力をしている。	入居時に本人や家族からこれまでの生活歴や意向などの情報を得ています。充実した多くの情報を把握できるようにアセスメント様式を工夫し、日々の関わりの中で気付いた事などを記録に残しながら職員間で共有を行い、思いを汲み取れるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時からの情報収集に加えて入居後も得た情報を職員全員で共有出来るように毎月の職員会議でケアカンファレンスを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り前のミニカンファレンスにてその日の打ち合わせをしながら、情報を常に共有しながら、常に出来る事探しを求めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議でのケアカンファレンスや常日頃から意見を出し合いケアプランに結び付けている。	アセスメントや日々の記録を基に職員間でアイデアを出し合いながら利用者や家族の意向に沿った介護計画を作成しています。3ヶ月ごとに評価し、利用者や家族の意向を確認しながら見直しを行っています。より利用者本位の介護計画となるよう独自にアセスメント様式を工夫しアセスメントが充実するよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに対しての記録内容になっている。その中で徐々にアセスメントが少しづつであるが、増えてきており、ケアプランの見直しにつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに応じた柔軟な対応を心掛けている。例えば施設入所中の重度の障害を持つ娘さんが自宅に帰られた時は家族水入らずの時間を作って頂けるように自宅への送迎をさせて頂いている。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に関しては活発ではないが、地域住民との関わりを持つ努力はしながら、徘徊時の声かけはお願いしてある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人の希望通りと今までの主治医で継続して頂き、定期受診の支援をさせて頂いている。	これまでのかかりつけ医を継続して貰っています。歯科などの専門医への受診を含めて受診支援を行い、受診の際に利用者の状況を医師に伝え情報を得る等、協力関係を築いています。毎週法人の医師の往診があり、緊急時は24時間対応の協力医療機関との連携体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常日頃の観察から健康上の特変があればすぐに看護職に報告出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	入院先の医療連携室とはいつでも連絡を取り合いながら緊急時の受入は今まで問題なく対応して頂いている。退院時も速やかに受け入れをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は常にご家族さんと密に連絡を取り合いながら、ご利用者にとって一番良い方法を選択出来る様に努めている。	入居時に重度化の指針について説明を行い同意を得ています。利用者にとって最善の支援に繋がるのであれば、できる限り意向に沿いたいと考えています。医師や家族とその時々で頻回に話し合いを重ねながら本人にとってより良い状況作りの為の方針を関係者で話し合いながら取り組んでいます。今後も職員間で勉強会を重ね支援していきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関してのマニュアルの設置。勉強会を実施している。又救急隊員よりの緊急時の研修も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練等地域の方にも参加して頂いている。そして地域における合同避難訓練に入居者にも参加して頂いている。	年2回、近隣住民の参加を得て消防立会いの下、昼夜を想定した訓練を行うと共に、海や川が近いため水災害についても避難訓練を行っています。また、地域の合同避難訓練に利用者と一緒に参加しています。開設時、避難しやすいようホームは2階建ての1階に造られ、スプリンクラーを設置しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの研修も実施しながら、当施設の処遇方針にもあわせ、人格の尊重とプライバシーの保護には注意している。	日頃から利用者と目線を合わせた対応を心がけ、声掛けの際も全職員が日々意識して行えるよう努めています。部屋の中がリビングから見えないよう入口に暖簾をかけたり、排泄時の声掛けは小声で行うなどプライバシーに配慮した対応を心がけています。職員間で気付いた事は互いに注意し合い、不適切な対応に繋がらないよう取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	頭ごなしにこちらの意見を言わず、常に本人の希望を聞くようしている。意思決定出来ない方に対しても、声かけしながら対応させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでも、利用者本位であることを常に考えながら、相談しながら、決める様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔に気をつけながら、汚れたら着替えて頂いている。そしてその方が好むおしゃれをしていただきながら、適切な身だしなみが出来ているか援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の材料を取り入れながら、毎日の買い物によって、季節も感じて頂きたいと365日買い物に行っている。状況が許される限り、その方に応じたお手伝いをお願いしている。	日々利用者と共に買い物へ行ったり、じゃが芋の皮むき、もやしの根切りなどの下ごしらえや盛り付け等、利用者が出来る事や得意とされている事を一緒に行っています。誕生日は希望のメニューの提供や外食、また、利用者で作った弁当を持ってドライブに行くなど楽しみ事の支援も行っています。職員は一緒に食卓に着き、食事介助をしながら会話をしたり、楽しい時間となるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄チェック表にて食事摂取量、水分摂取量を把握している。その方の食べる能力に応じて、お粥にしたり、おにぎりにしたりしながら対応させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方に対しては毎日眠前のポリドント洗浄の実施。毎食後の口腔ケアの実施をしている。		

ハーモニーグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけながら、その方の排泄パターンの把握に努めている。確かににおむつの使用を減らす努力も必要と考えているが、加齢に伴う尿失禁は立位をとただけでも尿漏れがみられ、おむつの使用はやむ得ない事を感じている。	トイレでの排泄を基本とし、個々の方の状態に合わせて布パンツや紙パンツ等を利用しながら支援しています。過去の記録から排泄リズムを把握し個々の方のリズムに合わせて失敗の無いように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全体的に便秘傾向が多く、水分補給、食事内容を考慮したり食事摂取量の把握、散歩を勧めながらそれぞれの方に対して青汁の飲用や時には下剤も服用しながら、排便管理させて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	常にタイミングを見ながら強制はしない様に心掛けている。	1日置きに午後から就寝までの間で希望に沿って入浴して貰えるよう支援しています。入浴を拒まれる方は時間を見計らって再度声掛けを行うなど気持ちよく入って貰えるよう工夫しています。また、同性介助で対応する事もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のマイペースな時間を大切にしながら、居室にこもりきりにはならない様に見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服状態がわかるように、お薬リストを作成している。お薬に変更があった場合は申し送りノートに必ず記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好きな事、出来る事に焦点を当てながら常に力が発揮して頂ける事を基本的に努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院や親戚の家、又は自宅などご本人や家人の希望があれば、可能な限り対応させて頂いている。	「どんどん外出しよう」との目標の下、桜、つつじ、藤の花など季節ごとの花見やドライブなど積極的に出かけています。日々の買い物や、誕生日の夕食、希望による個別の外出支援、地域行事への参加など外出の機会が多くもてるよう支援しています。	



ハーモニープホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金を持っておられるのは一人であるが、まだ支払いも出来るのであるが、同じものばかりを購入されてしまうので、見守りをしながら、可能な限り自分で使えるようにして頂きたいと思っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話線がひいてあり、希望者は電話を設置して頂いている。現在2名の方が電話をひいて、自由に掛けておられる。手紙も希望時はすぐに対応させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に心がけ、悪臭がないように努力している。裏庭には季節の花や、野菜を上季節を感じて頂けるようにしている。	リビングには鯉のぼりの飾り付けや生花を活性、利用者が季節を感じられる工夫をしています。壁には利用者が描いた水墨画や、イベントの写真、利用者とホームの愛犬、職員の写真が一つの家族のように名前入りで掲示されアットホームな雰囲気となっています。利用者はソファで寛いだり横になるなど思い思いの場所で過ごせるよう工夫しています。また、加湿器を設置し空調にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あらゆる所に座れる場所があるようにしている。本人の希望される所を気づく努力をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本にご自分の居室には本人の好むものや必要なものを入れて頂く様にしている。	居室には好みのカーペットを敷き、テレビや机、座布団など使い慣れた品々を持ち込まれ、その人らしい部屋作りがなされています。又、位牌を持ち込まれている方や、居室に電話を引かれ毎日娘と話をされる方など、個々の利用者が安心して過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	複雑な構造はなく、全館バリアフリー、必要な個所の手摺の設置等安全面には留意している。生活動作全般に出来る事はして頂きながら出来ない部分への声かけ介助が基本と常に認識している。		